

スピードや効率より、譲れないこと。



何かトラブルがあったとき、

「私は忙しいのよ!」「こっちは急いでるんだよ!」

といった言葉をよく耳にします。

「忙しい」「急いでいる」ということが、なにより優先されるかのよう。

すべてが許される免罪符のように使われ、

言われた側も妙に納得して「すみません」とつい謝ってしまったり。

「忙しい」「急いでいる」が免罪符になるのは、

世の中全体が「スピード」を重視し、

「効率」を優先するのが当然だという風潮になっているからですね。

でも、「スピード」や「効率」が最優先で、本当にいいのでしょうか。

確実に間違いがないよう時間をかけたり、

誠実に心を込めて取り組んだりすることが軽んじられる社会は

どこか寒々しく、殺伐としていくようで、一抹の危うさを感じます。

コロナ禍であらゆる価値観が変わりつつあるいま、

「スピード」「効率」に対する考え方も

一度立ち止まって見つめ直すことが必要かもしれません。

私たちキュアテックスの和紙糸づくりは、
ときに「効率を無視している」ともいわれるくらい、
とにかく丁寧に、手間ひまかけることを大切にしています。

科学の力やさらなる機械化で効率を高めることはできるけれど、
それでは植物が持つ自然の力を損なってしまう。
だから、そうはしない。

芯に化学繊維などを使う製法もあるけれど、
私たちが使うのは、あくまでも天然のマニラ麻から作られる和紙だけ。

その和紙を、乾燥したまま、紙縫りの原理で右へ左へ 1000 回以上、撚る。
水分を含ませながら撚る一般的な方法とは違うけれど、
仕上がりの風合いが格段によくなるから、乾燥した状態で撚る。

撚ったら筒状に編み上げ、念入りに手洗いし、じっくり天日干し。
そうして自然乾燥させた編地を、ほどいて糸にする。
これが、キュアテックス独自の柔軟加工。特別なやわらかさの秘密。

越前和紙のふるさと福井県で
職人たちが 10 年かけて完成させた独自製法です。

大量生産はできない、お待たせしてしまうこともある、
それでも天然の植物原料にこだわり、手間ひまかける独自製法にこだわるからこそ、
繊維としてひとときの「安全・安心」につながり、
国際的な安全基準「エコテックス スタANDARD 100」で
最も基準の厳しい[Class1]にも認められたのだと思います。

「スピード」「効率」より、譲れないことがある。

「効率を無視している」といわれても、
それはむしろ誇りであり、誉め言葉と受けとめたいですね。